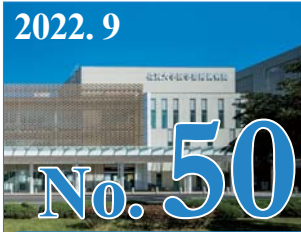


2022.9



佐賀大学病院ニュース

患者・医療人に選ばれる病院を目指して News & View



〒849-8501 佐賀市鍋島五丁目1番1号

TEL 0952-31-6511(代)

病院ホームページ <http://www.hospital.med.saga-u.ac.jp/>

病院長 副院長就任のご挨拶

野口 満



今年4月より、病院長を拝命しました野口です。

現在、当院は病院再整備の進行中で、さらにここ数年の新型コロナウイルス禍にあつて皆様にご不便をおかけしていることも多いかと思ひます。しかし、その中にあつても常に質の高い安全な医療を地域の皆様に提供することが当院の使命と考えております。このため、当院の理念で

副院長(安全管理・中期計画担当) 入江 裕之



令和4年4月1日付けで安全管理・中期計画担当副院長を拝命いたしました。安全管理は患者さんと医療者を守る大切な部門です。

事故のない安全な医療を提供していくために、職員の教育やより良いシステムの構築を行つてまいります。中期計画は今年度から第4期に入り、大学や病院をより良いものにしていく基礎となります。より安全な医療の提供、そして病院のさらなる改善に向けて努力してまいりますので、皆さまのご支援とご協力をよろしくお願い申し上げます。

副院長(卒後臨床研修担当) 安西 慶三



平成30年から4年間担当いたしました卒後臨床研修担当副院長を令和4年4月1日からも引き続き携わることになりました。

卒後臨床研修担当の役割は良き医師を育てることにあります。また、災害担当、医療情報部長、診療記録センター長、栄養治療部長も兼務しております。特に災害に対しては新型コロナウイルス感染症対策本部として、本院に入院や通院されている患者さんや病院の職員の方の安全で安心できる環境の構築を心がけております。

副院長(経営企画担当) 野出 孝一



この度、経営企画・再整備担当副院長を拝命致しました循環器内科の野出孝一です。長年に渡つた再整備も外装改修を残すだけになりました。

スタッフ皆様の御尽力で現状の病院経営は収支バランスが取れ良好ですが、今後は更なる健全経営への取り組みと、質の改善に向けた人的・物的投資が必要ですので、各部門の意見を汲み上げながら執行部で議論して参ります。佐賀大学病院の発展に微力ながら貢献する所存ですので、皆様の御協力をよろしく御願ひ致します。

ある「患者・医療人に選ばれる病院」の実現に向けて、職員一同が働きやすく、また、活気ある病院づくりを心掛けていきたいと思います。

当院は、これまでの病院長はじめ職員一同の努力により健全な病院運営がなされていきます。Withコロナ・afterコロナに加え、これから医師の働き方改革も導入されます。

医療現場の状況、社会情勢の変化にも柔軟に対応し、大学病院の使命である「高度先進・急性期医療」を止めることなく、これまで以上の良好な病院運営を目指していきたく思っております。どうぞよろしくお願ひ致します。

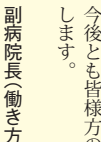
副院長(医療業務担当) 藤満 幸子



令和4年4月、医療業務担当副院長及び看護部長として7年目を務めることになりました。当院

は、高度急性期・急性期に特化した基幹病院として、その役割機能が求められています。これまでも病院理念に基づき役割を果たすために、病院業務の改善と患者サービス向上を通して業務効率化・生産性の向上を目指してきました。患者さんと身近に接し、スタッフの動きにも精通した看護職の視点を活かし、複雑化・多様化する患者さんのケアニーズに応えつつ「患者さん・利用者」「職員」「組織・経営」とつなぐ関係の充実に努めていきたいと思います。

副院長(働き方改革・業務改善担当) 山下 佳雄



この度、副院長(働き方改革・業務改善担当)を拝命しました。2024年に「医師の時間外労働時間上限規制」が始まることを

踏まえ、当院も対策を講じなくてはなりません。現在、業務の実態調査、勤怠管理システムの構築から着手しております。タスクシフト&シェアが必須となり、そのためには院内全職種の方々の協力が不可欠となります。当然、並行して院内全体の業務改善も進めなくてはなりません。働き方改革が進む海外では医療の質の低下を懸念する論文も散見されており、本政策を有意義に成就させるには幾重ものハードルを乗り越えていかなくてはなりません。改革には創意工夫が求められますが「無駄を減らす」は大事なキーワードではないかと考えております。

微力ではありますが、すべての職員の方が楽しく、やりがいのある環境づくりに真摯に取り組み参る所存です。どうぞ、よろしくお願ひ申し上げます。

病院長賞のご紹介

垣内俊彦 (小児科 診療准教授)



垣内診療准教授を中心とした研究グループでは、佐賀大学医学部附属病院、佐賀病院、唐津赤十字

病院、佐賀県医療センター好生館及び嬉野医療センターで出生した全ての新生児を対象に生まれてすぐにPID(原発性免疫不全症)検査を実施している。今回の研究事業は、2021年4月から開始されており、自治体からの公費助成を受けて実施されているのは、全国初であり、大変注目されている。今回の取り組みが佐賀県だけでなく、全国に拡大していくことが予測され、大変重要かつ先進的取り組みである。

●大坪 豊和 (先進不整脈治療学講座 助教)



頻脈性不整脈に対するカテーテルアブレーション治療をはじめとする不整脈治療体制の発展維持に努めている。コメディカルとの連携をより強化するために勉強会を実施し、アブレーションの周術期管理を円滑かつ安全に行える体制の確立、麻酔科蘇生科や手術部との連携により、心室性不整脈・重症などの緊急アブレーションが行える体制を確立した。カテーテルアブレーションは熟練した技術が必要とされるが、診療体制の構築により、附属病院の不整脈治療は、国内有数の治療数、治療成績及び安全性を担保している。

●心工コ一室 (秋吉 妙美 臨床検査技師、以下9名)

2012年までは循環器所附属の秋吉技師含め1-2名で検査を実施していたが、既存の

看護の日について

5月12日は、近代看護教育の母フローレンス・ナイチンゲールの誕生日です。この日に因んで「看護の日」が制定されました。看護の日を含む週の約1週間を「看護週間」とし、各地で様々なイベントが開催されています。

本院では、ポスター掲示によるイベントを5月11日に外来玄関フロアで開催しました。ポスターは、「ナイチンゲールの功績」と「新型コロナウイルス感染症自宅療養者向けハンドブック」を掲示し、ご自宅を活用されるよう紙石鹸や口腔洗浄剤とともに、200名程

生理検査技師に超音波指導を実施し、現在では、9名の技師が心工コ一室に従事している。心工コ一室の増員とともに、心工コ一室の増設、検査件数は2012年度の5,135件から2019年度には1,008件と約2倍となった。検査内容も右心機能の評価や早期に心機能の低下を把握できるストレーン評価など、最新の技術も実施している。一番の功績は、循環器所属と検査部所属の超音波技師がONLINEとして協力し、安定した質の高い検査を診療に提供していることである。

●川崎 美紀子 (1階北病棟 副看護部長)

経営、教育、地域(社会的)にそれぞれ以下のとおり附属病院に貢献しております。今後、更なる活躍が期待できる。

●経営貢献

- ・2017年4月から精神科リエンゾンチーム加算を算定
- ・2020年からせん妄ハイリスク患者ケア加算が算定可能となり、せん妄ハイリスク患者ケア加算導入のためのワーキングメンバーとして役割を担い、2021年4月より算定を開始した。

【教育的貢献】

- ・2019年より看護部院内研修「看護倫理」の講師
- ・各部署せん妄ケア学習会講師
- ・看護学科3年次非常勤講師

【地域(社会的)貢献】

- ・2019年2月佐賀県災害派遣精神医療チーム「佐賀県DPAT」隊員の認定を取得

の外来患者さんに配布することができ、興味を持っていただきました。



診療科紹介

心臓血管外科



診療科長
蒲原 啓司

心臓血管外科では、大きく心臓疾患と大血管を含む血管疾患に対する外科的手術を行っています。心臓手術では、主に虚血性心疾患に対する冠動脈バイパス術、弁膜症に対する弁置換及び弁形成術に加えて不整脈手術や心臓腫瘍などの手術も手掛けております。血管疾患では、胸部、腹部大動脈瘤や大動脈解離などの大動脈疾患に対する手術を中心に閉塞性動脈硬化症や急性動脈閉塞症に対する末梢動脈手術や透析用のシャントトラブルに対するシャント手術なども行っております。2021年度の総手術数は354例で、心臓・大血管手術は233例で、過去最高数でした。

心臓血管の外科手術は、従来、危険の大きい手術という印象だったと思います。しかし、最近では手術の方法や人工心臓などの補助手段が発達して安心して受けていただける手術になりつつあります。昨今では、心臓血管手術に於いても、より低侵襲の治療を行うことで術後のQOL・ADLに関して、術前と比べ低下させないことに重点を置く流れが加速しております。

この流れを受けて、当科では、大動脈瘤に対するステントグラフト治療や大動脈弁狭窄症に対する経カテーテルの大動脈弁置換術(TAVI)といった血管内治療や通常開心術でも肋骨や胸骨を切らない小切開下での低侵襲心臓手術(MICS)を導入し治療成績も安定しております。今まで、年齢や合併症等で耐術能に不安があり手術を断念せざるを得なかった患者さんにも安全に治療を提供できる環境を整えていきたいと思います。

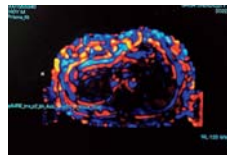
今後も、定型的な手術はもちろんのこと最先端の手術手技を積極的に取り入れ、定期、緊急を問わず、すべての心臓大血管疾患に対して、個々の患者さんに応じた最適な医療を安全に提供することを使命と考え精進してまいります。

MRエラストグラフィ導入について

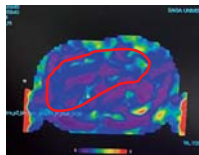


肝疾患センター長 高橋 宏和

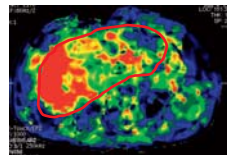
B型肝炎やC型肝炎、アルコール性肝障害、非アルコール性脂肪性肝疾患などで肝臓の炎症が進んでいくと肝臓に「線維化」が生じます。その最終形は肝硬変であり、肝硬変になると腹水や黄疸、肝性脳症などを発症し、また、肝硬変に近づくにつれて肝臓の発症リスクが上昇します。肝臓の線維化の見極めは非常に重要です。MRエラストグラフィは、MRIの技術を用いた最新の肝臓線維化診断技術です。腹部表面から空気で振動波を肝臓に伝えます。振動波は肝臓の硬さに応じて異なる速度で伝播します。この解析によって肝臓の線維化を「硬さ」として正確に測定することが可能です。MRエラストグラフィは、肝生検のような侵襲が無く、被曝もありません。検査時間は15分程度で、結果は数値化され、客観的な評価が可能です。県内では佐賀大学医学部附属病院だけで可能となっております。すべての慢性肝疾患患者さん、特に過去にウイルス治療を受けた方や脂肪肝の進行が疑われる方などが非常に良い適応です。お問い合わせは「肝臓」なんでも相談窓



▲振動波が肝臓に伝わる様子



▲正常の肝臓
殆どの部分が青く表示されている。○肝臓の位置



▲肝硬変の肝臓
固い部分は波が早く伝わり赤く表示される。○肝臓の位置

□0952-341-3731(祝日を除く平日10時~16時)までお気軽にお問い合わせください。

「術前中止薬管理Webアプリ」の院外利用開始について



薬剤部長 島ノ江 千里

2022年1月より、安全で効果的、かつシムレスな手術・薬物療法の実践を目指すために、「術前中止薬管理Webアプリ」を院外の方々へ公開し始めております。

本アプリは、手術等の侵襲的医療行為の際に抗血小板薬や抗凝固薬などの中止・継続を判断し、適切な休薬期間を決定するための支援ツールです。ガイドライン等の多岐にわたるエビデンスに基づいて「簡便に」術前中止薬を管理するために開発しました。2017年から院内限定で利用を開始し、有効性及び安全性を検証しつつガイドラインの改定に合わせて情報を更新してきました。

以下の二次元バーコードからご利用が可能です。詳細な情報につきましては、佐賀大学医学部附属病院薬剤部のホームページ「病院・薬局の方へ」に掲載しております。

地域の医療機関の多くの皆様にご利用いただき、



▲術前中止薬管理Webアプリ(上)と登録用バーコード(下)



令和4年度消費者支援功労者表彰 内閣総理大臣表彰受賞



受賞者
高度救命救急センター
センター長 阪本 雄一郎

本院、高度救命救急センターの阪本雄一郎センター長が令和4年度消費者支援功労者表彰において内閣総理大臣表彰を受賞しました。

今回の内閣総理大臣表彰受賞に至った活動については、医療機関ネットワーク事業に、病院として平成22年12月の開始時から現在まで継続的に参画し、その間、事故情報の収集、提供の責任者として尽力、消費者事故について治療をしながら乳幼児から高齢者までの幅広い年代における事故情報を院内の中心となって提供し、消費者への注意喚起等に多大な貢献をしました。また、消費者安全調査委員会において、専門委員に就任し、消費生活上の生命・身体被害に係る事故の原因究明にも貢献したことが評価されました。

連携病院紹介

独立行政法人国立病院機構 嬉野医療センター

院長
力武 一久

嬉野医療センターは、昭和12年に嬉野海軍病院に始まり、終戦後の昭和20年12月に国立嬉野病院へと改名、さらに平成16年に独立行政法人国立病院機構が発足すると同時に現在の病院名となりました。病床は399床。地域医療支援病院、第2種感染症指定病院、地域がん診療連携拠点病院、地域救命救急センター、地域災害拠点病院、基幹型臨床研修指定病院などを有する佐賀県南部医療圏の急性期医療を担っている病院です。令和元年6月に新病院が完成し、本年9月に開業予定の西九州新幹線嬉野温泉駅前という要地へ移転しました。24時間体制での救急医療を中心に地域に求められる医療の提供を目指しています。

本院との連携の状況
患者さんの紹介・逆紹介は勿論ですが、多数の診療科で医師を派遣していただいております。初期臨床研修医の半数以上は、佐賀大学出身者であり、それ以外の研修医も佐賀に縁のある方が多いようです。3年目からの専門医プログラムでお世話になることが多いと思っております。その際はどうか宜しくお願い致します。また、佐賀大学医学部附属病院総合診療部のご協力で、平成28年より地域総合診療センター嬉野を開設しています。多種多様な疾患に対応できる総合内科医を育成すべく、定期的な指導に赴いていただいております。この場を借りて感謝申し上げます。大学の支援なしでは、病院運営は成り立ちません。今後ともご協力の程、宜しくお願い申し上げます。

